

第 1 回 医療体制のあり方検討委員会 議事概要

1. 日 時 令和6年5月31日(金)19:00～20:30

2. 場 所 志摩市役所

3. 出席者 日比委員(委員長)、山本委員、堀井委員、嶋崎委員、楠田オブザーバー

4. 議 題

1. 検討委員会設置の経緯について
2. 志摩市の医療をとりまく現状について
3. 志摩市民病院の現状について
4. 委員による討議

5. 内 容

1. 検討委員会設置の経緯について(資料 1)検討委員会設置に係る経緯等)

[事務局から資料に沿って説明]

○委員の紹介

○検討委員会の設置に係る経緯について説明

○検討委員会の目的や検討課題について説明

○スケジュールについて説明

2. 志摩市の医療をとりまく現状について(資料 2)志摩市の医療をとりまく現状)

[事務局から資料に沿って説明]

○志摩市の人口や医療体制の現状について説明

3. 志摩市民病院の現状について(資料 3)志摩市民病院の現状)

[事務局から資料に沿って説明]

○志摩市民病院の入院及び外来患者数等の現状について説明

4. 委員による討議

■志摩市内における医療体制について

(回復期から慢性期の必要性)

○今後 10 年間は、人口推計で、85 歳以上の高齢者の実数がほとんど減らない。今後しばらくは入院需要が横ばいで推移する。これらの状況も踏まえると、回復期から慢性期の病床が必要と思われる。

(地域格差)

○志摩市の地理的な特徴もあり、「医療へのアクセスしやすさ」「受けることができる医療のクオリティー」「市民が負担するコストと受けることができる恩恵」の地域間格差を減らしていくようなことも必要と考える。

(人材確保)

○三重大学医学部の志摩市出身地域枠で推薦を受けた学生は、地域で活躍したいという気持ちがある。そういった学生が活躍できる場の提供ができるといい。

○人材確保のためにも、三重大学の地域枠推薦を活用していく。

○地域枠の今年の入学生から診療科縛りができた。内科、外科、救急、総診など。毎年推薦していけば、おそらく安定して人材が確保できると思う。

(病院間の連携)

○地域完結型医療を考えた場合、病院間の連携が非常に大事になる。まずは、かかりつけの先生と病院との連携がどれくらい緊密にできるか。それと、病院間連携として、志摩市民病院と県立志摩病院との連携がどれくらいできているのか。

○新型コロナワクチンの集団接種を経験したこともあり、医療機関の連携は十分とれていると思う。

(医療と介護の連携)

○今後しばらく高齢者が増えるということは、医療を必要とする高齢者が多くなる。重症化、合併症予防、二次予防、三次予防という意味で、医療と介護の連携をどうしていくか。

(求められる医療の範囲・提供する医療の範囲)

○一般医療に関して、志摩市としてはどこまでの医療を提供していくのか、本当に市民の方が要望されるのはどこまでの分野の医療なのか、そして、救急医療に関しては、志摩市としてどこまでの救急を対応しようと考えているのか。

(災害時の医療)

○災害の問題。県立志摩病院は、災害拠点病院で、東紀州全域をカバーすることとなっている。そうなった時、志摩市の対応は、志摩市民病院や開業医ですることとなる。

(在宅医療の特徴)

- 志摩市は、在宅医療の守備範囲が広い。車で 10～20 分かつたり、離島があるので、場合によっては船に乗って行くというところもある。

■志摩市民病院の役割や機能について

(現状)

- 地理的に前島半島に位置するということで、志摩市民病院の意味は大きい。
- 志摩市民病院の近くに住んでいる人は、志摩市民病院でできることをやってほしいと思っている。そういった住民の思いも重要である。
- 一般診療や、在宅医療も頑張っているし、病床稼働もいい。志摩市民病院は大王町と志摩市の市民が必要とする医療を提供しているように感じる。

(在宅医療のニーズへの対応)

- 高齢者世帯が増えている現状で訪問診療のニーズが高くなってくることを考えると、志摩市民病院は、訪問診療、訪問看護、訪問リハを積極的にしており、機能を果たしていると思う。
- 在宅医療のニーズが増えてくるので、積極的に取り組んでいただけるといい。
- 在宅医療で、離島に県立志摩病院から医師が月 1 回行っている状況がある。県立志摩病院と志摩市民病院が連携して離島の医療を担っていけるといい。
- 志摩市民病院が在宅医療の中心となり、他の在宅をやっている先生達が集まる形で動かしていくことができるといいのではないかな。

(透析)

- 透析の治療においても、非常に頑張っている。
- 透析の実施日を増やすことで、今後増えるであろう透析の需要に対応していく。
- 他の透析病院や県立志摩病院でコロナ禍にクラスターが発生したり、何かトラブルがあった時に、志摩市民病院の方で対応していただくといったこともある。

(人材育成)

- 志摩市民病院の現状として、研修医や学生の教育に力を入れている。医学生からリハビリ、看護学生まで、多くの学生を受け入れている。実際、初期研修医として基幹型臨床研修病院の県立志摩病院の方に 2 名の方が戻ってきているということもあり、志摩市民病院の医師達は人材育成を頑張っていきたいという思いを持っている。
- 確かに志摩市民病院は、地域でありながら人を集めることができる病院。私のホームホスピタルだと言って、志摩地域に戻ってきてることが多い。
- 三重大と連携し、三重県出身の学生を対象とした人材育成を強化していくといいのではないかな。

(目指す方向)

- 志摩市民病院は、急性期の一部から、慢性期、在宅医療、看取りまで広くカバーできる「ほとんど在宅、時々入院」といった地域包括ケア病院として機能していくことを考えている。
- 伊勢赤十字病院などから志摩市民病院に転院しリハビリをする、そして在宅へ戻っていく。その流れの中での志摩市民病院の役割を果たしていけると良い。
- 医師の持続可能性という意味では、あまり手を広げすぎるのはどうかと思う。救急まで手を広げるのではなく、救急はトリアージをするだけでもいいのかもしれない。
- 志摩市民病院としては、既存の設備を生かし、ハードではなく、人というソフトの部分を大切にしながら市民のニーズに合った医療を提供していけるといいのではないかな。

(医師の確保)

- 医師を確保する意味で、三重大学とタイアップして何か研究テーマを見つけて研究成果を出していけるような体制がとれないかな。
- 内科の医師がメインになるかもしれないが、志摩市民病院に赴任をして、臨床しながら論文をまとめるといったようなシステムが作れないかな。そういうことができれば、安定的にドクターに来てもらえるのではないかな。

(病床)

- 病床利用率が 90%と、ベッドコントロールもうまくやれている。今後、県立志摩病院を含め、老朽化による建て替えのタイミングで、志摩市の入院の状況が大きく動くことが予想される。

(市民検診)

- 胃がん検診など、手技を伴う検診をやれる先生が減ってきている現状がある。今後、市民検診の部分で志摩市民病院や県立志摩病院がカバーできるようになるといい。

(運営形態)

- 運営形態について、志摩市民病院は、現在、地方公営企業法一部適用であるが、一部適用より自由度の高い全部適用、地方独立行政法人、指定管理、民間譲渡という形があるが、病院運営の小回りや機動性という部分では、運営形態をどうするか考えた方がいい時期に来ていると思う。

※ 今回、委員の皆様からいただいたご意見を整理し、次回にお示しすることで、委員全員が了承した。